

竹原市への質問（追加質問案）

令和 8 年 7 月 1 日追加分

【追加質問事項】

7. 人口減少・消滅可能性都市からの脱却に向けた具体的ロードマップについて

現在の竹原市における最大の課題は、人口減少への対応であり、いわゆる「消滅可能性都市」という危機感からどのように脱却していくのかを、市民や事業者に分かりやすく示すことではないかと考えます。

人口減少対策については、理念や掛け声にとどまらず、いつまでに、何を、どのような手順で進め、どのような成果指標で検証していくのか、具体的な道筋を示していただきたいと考えます。市としてのロードマップ、重点施策、実施体制についてお聞かせください。

8. 地域資源を活用した産学官連携および新たな地域産業の創出について

竹原市内外には、エネルギー関連企業、各種団体、研究機関など、他の自治体と比較しても遜色のない地域資源が存在していると考えます。こうした資源を、人口減少対策や地域経済の活性化にどのように結びつけていくお考えでしょうか。

例えば、環境に配慮したエネルギー供給や自然環境の再生、農水産分野での研究・実証、トマト・イチゴ等の栽培、アサリの再生、藻場の復活再生など、地域の産業や自然環境を生かした取り組みには大きな可能性があると考えます。

近隣の果樹試験場や水産研究所等との連携も含め、企業・研究機関・行政・地域事業者が連携する仕組みづくり、新産業の創出、人材育成、雇用創出について、市としての具体的な方針をお聞かせください。

9. 観光資源の活用と DMO・観光協会の役割整理について

竹原市は瀬戸内海に面した風光明媚なまちであり、古くから文教の町、「安芸の小京都」として栄えてきた歴史があります。伝統的重要建造物、史跡、町並み、瀬戸内の景観などの観光資源を、今後どのように発信し、地域経済の活性化につなげていくお考えでしょうか。

また、DMO については、市民や事業者はその役割や活動内容が十分に伝わっていない面があると感じます。DMO と観光協会、それぞれの役割分担、成果の検証方法、補助金等の支援に対する費用対効果について、市としての考え方を明確に示していただきたいと考えます。

観光振興を一過性のイベントや個別事業で終わらせるのではなく、地域資源を総合的に生かすビジョンとして整理し、事業者・市民・行政が同じ方向を向いて取り組める体制づくりについて、市のお考えをお聞かせください。

7. 人口減少・消滅可能性都市からの脱却に向けた具体的ロードマップについて

(回答)

人口減少は、地域経済、雇用、教育、医療、交通、地域コミュニティなど、まち全体に関わる最大の課題であると認識しております。

市では、移住・定住、子育て支援、住宅支援、企業誘致、創業支援、観光振興などに取り組んできました。今後は、若者や子育て世代が竹原で暮らし、働き、挑戦したいと思えるまちづくりを、一体的に進めることが重要です。

そのため、引越費用や家賃、奨学金返還への支援に加え、市内企業の魅力向上や企業誘致を進め、働く場や挑戦できる場を増やしていきます。

また、「ALL 竹原きらっと未来創造会議」では、アンケートやヒアリングを通じて転出の多い世代の声を伺い、必要な施策を積み上げてきました。令和8年度からは、この会議を中心に、若者・女性が活躍できる環境づくり、子育てしやすいまちづくり、働きやすい職場づくり、暮らしの魅力発信に取り組めます。

今後も、若者や子育て世代に向けた施策の効果を高めるため、商工会議所、事業者、地域の皆様と知恵を出し合い、必要な取組を検討していきたいと考えております。

人口減少対策は、行政だけで実現できるものではありません。皆様と同じ方向を向き、若者や子育て世代に選ばれるまちづくりを進めてまいります。

8. 地域資源を活用した産学官連携および新たな地域産業の創出について

(回答)

本市には、エネルギー関連企業、食品関連企業、製造業、農水産業、歴史的町並み、瀬戸内の自然環境など、多様な地域資源があります。これらを地域経済の活性化や雇用創出、若者が挑戦できる場づくりにつなげることは重要であると考えております。

これまでも、企業誘致や創業支援、地域資源を活かした観光振興に取り組んでおり、竹原工業流通団地の全9区画の利用決定や、市内事業者と協業して実証活動に取り組むスタートアップ企業の進出など、新たな動きも生まれております。

ご提案のありました、環境、エネルギー、農水産分野での研究・実証、藻場やアサリの再生などについても、地域資源を活かした可能性のある取組と受け止めております。

今後は、企業、研究機関、地域事業者、商工会議所等と連携しながら、竹原の資源を磨き、仕事や雇用、新たな産業につながる取組を検討してまいります。

9. 観光資源の活用と DM0・観光協会の役割整理について

(回答)

竹原市には、町並み保存地区、瀬戸内海の景観、大久野島、酒造文化、歴史的人物、食、暮らしの風景など、多様な観光資源があります。また、瀬戸内地域は海外メディアにおいても、自然と文化が調和する地域として紹介されており、竹原もその魅力を構成するまちの一つであると考えております。

一方で、観光資源は、存在しているだけでは地域経済の活性化にはつながりません。誰に、どのような価値として届け、滞在、消費、再訪、地域内での経済循環につなげるかが重要です。

そのため、今後は、新たに地域経済の循環を生み出す観光マーケティング事業を行うことで得られるデータ等を分析、活用し、商工会議所、観光協会、地域事業者などと連携しながら、観光客のニーズを踏まえた効果的なプロモーションや観光コンテンツの造成に取り組んでまいります。

DM0 については、観光分野において市外からのお金の流れを増やし、地域経済に結びつけるマネジメント機能を担うものと考えております。観光協会は、観光案内やイベント、事業者とのつながりなど、現場に近い役割を担っていただいております。

また、成果指標の検証方法につきましては、数値で見える成果や DM0 が行った事業成果を市民や事業者がどの程度実感できたかなど、今後、専門家の意見を参考にしながら、その手法や判断基準等を検討していきたいと考えております。

次に、補助金等の支援につきましては、市と DM0 が地域の観光振興や地域経済の活性化という共通の目的のもと、連携して取り組んでいることを踏まえ、事業の進捗や成果の確認をしながら、事業改善、次年度以降の施策立案につながる検証を行うとともに、費用対効果の視点から事業内容の見直しや改善を図ってまいります。

今後は、DM0、観光協会、商工会議所、事業者、市がそれぞれの役割を整理し、観光の力を地域の稼ぐ力、経済循環、暮らしの豊かさにつなげる仕組みづくりに取り組んでまいります。